

内よ安土酒井宮内大輔殿元和八年信別
松城より庄月（所入神の刻け）西よ飛來ふ
と云傳云傳（り）る細吹傳り事あれ世よ
傳り事あれを記され毎々七月七日昇帳
あり

一三 照寺

同村よりあり古記とて慈光寺の本ありて
如來堂の輪^{カキ}當寺にあり古七月廿三日古仲
の表へ古信系詣りて亡霊の菩提を弔り
とそ中比後より一に正年古僧をを立

諸人群集も、渡川組より表のふといあり
七月廿一日の夜より翌日まで、蘇津氷村の古
家登ふし誦經念仏して卒都婆を賣³り、
古男女を賣て親子兄弟の亡霊の方向と
を死する人服下より取られ方向を更へおと
性誕を禱るを五更を信して系詣より
事終り又信より百より廿三日をうら
と唱（條を搦て仏あり依り梵籠を照し西
例の盃蘭盆をハ只盆と斗え）廿二日より
廿三日をうらとと見え詣りうらハ盃蘭